

● カエルの話

にぎやかに聞こえているカエルの鳴き声は、シュレーゲルアオガエルです。
この写真を見てください。上はシュレーゲルアオガエルですが、下は何でしょう。

シュレーゲルアオエルとニホンアマガエルは似ていますが、アマガエルは耳の後に黒い部分があります。上のカエルにはありませんね。上は間違いなくシュレーゲルアオガエルです。
下のカエルは茶色ですが、やはりシュレーゲルアオガエルです。最初は間違ってヌマガエルと思ったのですが、吸盤があるのでシュレーゲルアオガエルです。アマガエルも吸盤がありますが、それは丸い形をしています。



その池でアズマヒキガエルがウシガエルに抱きついているのを、以前見ました。
ヒキガエルは間違って雄に抱きつくと、「俺は雄だ」とクウクウ鳴きます。それで離れるのです。雌の場合は抱きつかれても声を上げません。それで力いっぱい抱き締め、産卵を促します。
ウシガエルは声を出しませんから、目を白黒させていました。

ついでながら、産卵時期に集まってくるヒキガエルの性比は、雄 3 に対して雌 1 です。何故だと思いますか？
考えてみてください。解答は次回、第 2 回の観察会に。

水田の中にはオタマジャクシが 3 種類います。先ほど捕まえてケースの中に入れてあるので見てください。
うす茶色のオタマジャクシはニホンアカガエルです。今年はこの谷津で 1,600 個のニホンアカガエルの卵塊がありました。
あちこちに黒く固まっているオタマジャクシがヒキガエル、大きなオタマジャクシはウシガエルです。ウシガエルはオタマジャクシで冬を越して、翌年幼体になります。



ニホンアカガエル(上)とヒキガエル(下)

おや、足元に小さなカエルがピョンピョン跳ねていますね。ヌマガエルです。

このカエルは、もともと本州南部から東南アジアに分布していたカエルですが、近年関東地方でも増えています。人為的に持ち込まれたのでしょうか。

この谷津では今までサシバが見られなかったのですが、昨年からは姿を見せています。ヌマガエルが増え、それを食べるヘビも増えたから、それでサシバが見られるようになったものと思われます。

逆にニホンアマガエルの減少が見られます。ヌマガエルによる捕食が大きな要因のようです。身近な足元で、生態系の大きな変化が起きています。（浅間茂）



ヌマガエル。ツチガエルとくらべて腹が白いのが特徴



サシバ